

## 会 議 概 要

会議の名称	平成 26 年度 第 5 回 座間市子ども・子育て会議
会議日時	1 月 29 日（木） 18：00～20：00
会議場所	座間市役所 5F－1 会議室
委員	大下聖治、大友奉、渡邊廸子、大塚和光、中村保夫、山本安雄、田中敦、金子三枝子、小澤ゆり、大木貴子、安藤潔、橋本俊幸
事務局	子育て支援課 電話 046－252－7969（直通）
次第	子ども・子育て会議 1 開会 2 議題 (1) 座間市子ども・子育て支援事業計画（素案）について 3 その他 4 閉会

### 会議経過

#### 【座間市子ども・子育て会議】

1 開会

2 議題

(1) 座間市子ども・子育て支援事業計画（素案）について

・事務局より資料説明

#### 【質疑応答】

(委員)

パブリックコメントの意見にもある利用者支援事業ですが、ニーズ調査の自由意見でも、「どこに相談に行ったらいいかわからない」といったような意見もあったので、ぜひ入れて頂きたいと要望します。

(事務局)

今は庁内の体制や、必要性の面から実施事業としていませんが、今後、要望が多いようであれば、実施事業に含めるということも考えていきたいと思います。

(委員)

素案の 2 ページの下のところ「点検・評価」となっていますが、「見直し」もこの中に含まれるということでしょうか。

(事務局)

次世代育成支援行動計画と同様に、毎年見直します。

(委員)

子育て会議のメンバーが、ぜひ入れて欲しいと言った場合には検討してもらえるのか、あるいは市民から意見があったら取り組むのか、どういう形で新たな事業として取り入れるのでしょうか。

(事務局)

子ども・子育て会議はまだ存続するので、委員には毎年、点検とか見直しに参加していただき、市民からの意見や行政の体制、財政的な面なども総合的に考えて見直しをします。

(委員)

公立民間含めて全保育園で、子どもに関する相談は随時行っています。各保育園でご相談されたら一人一人に対してきちんと受け答えをされると思いますので、頭に入れていただければと思います。

(事務局)

現在保育園等で、地域づくりセンター事業というのを実施していただいております、保育園を有効活用して、近隣の皆様の相談に応じていきたいと考えています。

(委員)

市内に幼稚園は9園あるのですが、確保量の施設数8というのはどういう意味ですか。

(事務局)

一時預かり事業は、市外に通っていても座間市在住であれば座間市が対応することになるので、市外にもアンケートを取っており、市内6園、市外2園という計算になります。

(委員)

一時預かりを、幼稚園は厳密には理解していないのですが、今後、それぞれの幼稚園が座間市の行う一時預かりに手を挙げる道は残されているのですか。

(事務局)

もちろんです。

(委員)

量の見込みの延べ人数の算定根拠を教えてください。

(事務局)

延べ人数はアンケートをもとに平均を出して、就園率と平均率をかけて、幼稚園で何%の子どもが利用しているのかを算出しました。幼稚園に通っている子どもにその割合を掛けて出しています。

(委員)

一時預かりは在園児だけではないですね。

(事務局)

基本的には在園児です。

(委員)

座間市は、在園児以外は一時預かりを考えていないという解釈で良いのですね。

(事務局)

要件が満たされていれば、やるべきなのではないかと思います。

(委員)

やりませんよと言っても、幼稚園が座間市の一時預かり事業に加わることはできるわけですね。

(事務局)

はい、大丈夫です。

(委員)

24、25 ページで幼稚園が9園で総定員数が 2,132 人となっていますが、量の見込みと確保量では、確保量が平成 27 年度では 2,265 人になっています。

(事務局)

確保量は利用定員の積み上げになります。

(委員)

総定員数が 2,132 人ですから、これ以上になることは本来ありえないはずです。

(事務局)

実際、認可定員を超えて受け入れている幼稚園もあります。

(委員)

幼稚園の定員は厳密に決められています。現実問題としてそれを超えている幼稚園もありますが、行政が算定するのに、総定員数を超えた確保量を見込んでしまうのはおかしいのではないかと思います。4 月から定員が増えたとしても、その総数を超えて市が計画を立てるのはおかしいのではないかと思います。

(委員)

「反映します」とか「努力します」とかそういう書き方で、具体性がないからこういう質問が出てしまうのだと思います。

(委員)

推測なんです、26 年 5 月 1 日現在の幼稚園総定員数 2,132 名が、27 年度 2,265 名に 133 名増えるというのは、2 園の形態が変わると理解してよろしいのでしょうか。

(事務局)

すみません、広域調整をしている数字になります。26 年 5 月 1 日現在の市内 9 園の合計認可定員数は 2,114 人でした。1,662 人というのは市内の幼稚園に通っている園児で、市外に通っている園児を足すと 2,132 人になります。2,265 というのは、座間市の 9 園の幼稚園のうち、認可定員を 2 つ増やしたところがあり、それを反映した数字になっています。1 つは認可定員で、1 つは施設型給付の設定人数を増やしたということになります。わかりやすい数字に訂正させていただきたいと思います。

(委員)

1号認定を保育所が受け入れるということはないのですか。

(事務局)

1号認定に関しては保育園への受け入れは考えていません。現時点では、制度的に無理で、一部例外的に受け入れることはできるのですが、現在のところは考えていません。

(委員)

「放課後子ども総合プランに基づく取組み」ですが、(1)の目標事業量は、座間市としての計画があつての内容だとわかるのですが、(2)以降は今回方針が発表されたことによってとりあえず入れてたという内容なのではないでしょうか。

(事務局)

この部分は、まだ具体的なところまでは把握おらず、5年間の計画の中でやっていこうと考えています。

(事務局)

(2)の部分ですが、放課後子どもプランは、同一の小学校の中で放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業を一体化して実施することが望まれているので、優先順位として、今現在小学校の中に児童ホームが開設されている4か所に優先的に放課後子ども教室を開設することを目指しており、毎年度1箇所ずつ開設していくと考えています。

(委員)

障害児に関することは、第2部の33ページに集約されているということよろしいのですか。

(事務局)

この養育支援訪問事業というのは、子育てに不安を抱えている保護者の支援をするという事業です。障害児の対応については、特にこの計画の必須事業ではありませんので書いてありませんが、ここに載せていないからやらないということではなくて、引き続きやっていきたいと思っています。

(委員)

この会議の範疇ではないということですね。

(事務局)

今回の子ども・子育て支援事業計画は待機児童の解消ということがメインで、それについて具体的な数値目標を示すというのが大きな目標になっています。ただ、ここに載っていないからやらないということではなくて、今まで同様やっていきたいと考えています。

(委員)

待機児童よりも、障害児を持ってる方はもっと多いと思います。国の基準にはないにしても、困っている保護者がかなりいるわけですから、市としてはそこにもっと力を注いでほしいと思います。

(事務局)

障害児等に関する施策については、市の障害者計画及び、障害者福祉計画の中に記載しています。

(委員)

2 ページの位置づけの表の中に障害児に関する計画も書き出して、位置づけを明記しておくとうわかりやすいのではないですか。

(事務局)

市には様々な計画があり、それを全てこの中で表すのは難しいです。  
ご意見として伺います。

(委員)

3 点ほど伺いたいのですが、第 1 点は部数はどの程度でどういう人を対象に配るのですか。2 点目はパブリックコメントの回答で「貴重なご意見として伺います」とか、「対応します」とか「参考にさせていただきます」とか書かれていますが、どう参考にされるのかが欲しいのではないのでしょうか。3 点目は待機児童という表現と待機児童数という表現がありますが、これはどういう違いなのでしょう。

(事務局)

1 点目については、200 部程度作成する予定です。また、ホームページや情報コーナーなど、なるべく広く閲覧できるように考えています。

2 点目のパブリックコメントの回答ですが、答えられる部分については具体的に答えているのですが、現時点では「意見として承る」としか言いようのない部分もあります。

3 点目については、どちらかに統一します。

(委員)

一時預かり事業で、目標年度 29 年度とあるのですが、28 年度は難しいのですか。

(事務局)

現在具体的な話が上がっていない状況ではありますが、29 年度を目標にして、実現を目指していきたいということです。

(委員)

現在一時保育をされている無認可なども勘定に入れているのでしょうか。

(事務局)

現在、無認可の保育園の認可化移行という流れがありますので、認可保育園を想定しています。

(委員)

認可になるためにはいろいろ条件があると思いますが、どのように認可に移行していくのですか。

(事務局)

認可化移行運営支援事業という、5年以内に認可保育園に移行を目指し、認可保育園になった場合には、運営を補助するという事業があります。

(委員)

無認可保育園が頑張って、5年の間に認可になるのは難しいと思いますが、助成をされるわけではなく、あくまで無認可保育園に頑張っていただくという形ですか。

(事務局)

基本的には認可化移行を目指していただくことによって、補助の方は手厚くなります。認可になった時点ではなくて、計画を出していただいた時点で補助を出す、という形です。

(委員)

市としては29年度を目指すけれど、認可の方で手が挙げればすぐにでも実現できるということですか。

(事務局)

民間に限らずですが、当面の目標としては29年度1箇所と考えています。

(委員)

働きたいお母さん達の講座に出たのですが、一時預かりがあつたらという要望がありましたので、ぜひお願いします。もう1点、病児保育についても平成29年度に1施設とありますが、これはどうして29年度なのでしょう。28年度、もしくは27年度は難しいのですか。

(事務局)

病児保育に関しては、実施事業者の協力が必要になってきますので、まだ見通しがついておらず、現段階で具体的なことはお話しできない状況です。

(委員)

既存の小児科とか病院を市の方が説得されるということですか。

(事務局)

事業実施を希望する施設が出てくることを一番希望しています。

(委員)

器が出来ていると併設は難しいと思うので、まだ器が出来ていない状態のクリニックモールとかに、市の方で併設してくれる病院に来てください、とかそういった要望はできないのでしょうか。いろいろ意見を聞いている中で、そういったアイデアもありましたので、ぜひご一考いただければと思います。

(委員)

パブリックコメントの中にも、子育て支援センターで一時保育をしてくれればいい、という意見がありました。サンホープも第2子育て支援センターの方も、一時保育事業者を紹介してくれると思います。各民間保育園では一時保育をしており、そういうところを紹介していただいて、お使いになるのもいいの

かなと思います。それと、病児保育は座間市では今、子どもの家なんですか。

(委員)

29年度というところとちょっと先ですけど、座間総合病院ができるのであれば、その一角に考えていただければと思います。

(事務局)

パブリックコメントでも、総合病院の中で病児・病後児保育ができるようにしてください、という要望をいただいているのですが、場所が利用用途が制限されている国有地なので、病院ができるようになったということも特例であり、現状では非常に難しいとしか申し上げられません。

(委員)

総合病院はどの診療科が来るのかは決まっているのでしょうか。

(事務局)

その点は一切把握していません。申し訳ございません。

(委員)

病児保育施設が29年度から増えるということですが、30ページの表14では、確保量が220から700とかなり増えています。

(事務局)

確保量の考え方というのは定員人数×稼働日数です。

(委員)

1園増えるにしても病後児ということですか。

(事務局)

それは限定しているわけではありません。

(委員)

30ページ表14で、29年度1施設実施ということですが、27年度も確保量を考えられているということですか。

(事務局)

これは現在、病後児保育を実施している施設の分の確保量です。病児保育となっていますが、国の表現では病児保育という表現が内容的には病児保育に関連する事業で病児・病後児ということになっています。

(委員)

広い意味での病児私たちが認識している病児保育とは違う、広い意味での病児保育ということですね。

パブリックコメントの 20 番、29 年度に 1 施設というのは純粋な病児保育ですか。

(事務局)

病児には限定しておらず、病児・病後児ということです。

(委員)

30 ページ表の 14 の 29 年度以降の 700 というのも病後児の含まれた状態ですか。私たちの認識では病児保育というのは純粋な病児と誤ってしまいますので、分けていただいた方が良いと思います。

(事務局)

病児と限定してしまうと、病後児を考えている事業者がいた場合にこの計画に参画できないということになってしまうので、座間市のスタンスとしては、いろいろな方の相談に乗れる状態で計画を策定したいと考えています。

(委員)

病児・病後児保育事業とか、もっとわかりやすい表現にさせていただいた方が伝わりやすいんじゃないかなと思います。病児と病後児ではちょっとニュアンスが違ってしまいますので。

(事務局)

地域子育て支援事業については、国が示している名称を使っています。国の定めでは病児保育事業というのは、病氣中又は病氣の回復期ということで、病児も含んでいるということです。

(委員)

そういう名前が決まっているのであれば変えることは難しいと思いますので、例えば、27 年度 28 年度現在は病後児のみ扱っていますとか、もしくは一番最初のところに下線を引いていただくとか、もう少し目立つようにしていただければと思います。

(事務局)

27 以降に関しては、あくまでも見込みで病後児となっていますが、病児をやりたいという業者が出てくるかもしれませんし、実際どうなるかはわかりませんので、病後児を病児に含めて記載しています。

(委員)

私だったら誤解すると思いますので、その表現を何とかしていただけないでしょうか。

(事務局)

例えば説明書きの中に、「現在座間市では病氣の回復期にあるお子さんについての保育を実施していますが」というような書き方を加えて誤解を招かないような形の表現にさせていただきたいと思います。

(委員)

子育て支援課とか保育課とか行政が、市民にいろいろ情報提供していただきたいと思います。パブリッ



クコメントの子育て支援事業のところに「市営にしてください」とか「従事する職員は有資格者にしてください」とかいうようなことが要望に出っていますが、私立保育園は園長の判断でどんどん要望を受け入れながらいい方へ向かって行けるのではないかなと思いますし、それから従事する職員は、ほとんど今有資格者です。情報の提供があればこんなことはないのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

妊婦さんが産科がないということで出産するのに難しいということですので、もし市の方で総合病院に要望ができるのであれば要望していただきたいなと思います。

(委員)

この子ども会議自体は今後も継続されて開催されるのでしょうか。

(事務局)

子ども・子育て会議は、今後も進行管理を行っていきます。

(委員)

公募という形で、保育園の保護者代表として携わっているのですが、転居したので、今後、保育園の保護者代表として誰かしらこの会議に参加してもらうことはあるのですか。

(事務局)

どういう方になってもらうのかということは会議規則の方に定めてありますので、公募の方の後任はまた公募の方と考えています。

(委員)

保育園の保護者の代表の方が来る場合に、子どもを連れてきてもいいのですか。

(事務局)

今も保育をやっているので、お子さんを連れてきて大丈夫です。手配があるので、事前の申し込みが必要になりますけれども。傍聴の方も預けられるようになっています。

### 3. その他

(事務局)

今日皆様からいただいたご意見を含め、庁内で調整を図り、政策会議、市長決裁を経て、この子ども・子育て支援事業計画を素案から実際の計画として作成していきます。また、市長決裁を経たものについて、神奈川県に提出させていただきます。

また、27年度の開催時には、計画の進捗の管理ですとか見直し等につきまして皆様からご意見を伺いたいと思っております。

### 4 閉会